



【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	80	20	0	0	
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	20	0	0	0	20
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	提出された論文について、研究テーマを設定する適切さ、調査手法の選択、結果を分析して考察する科学的思考の能力等を、指導教員（主査）ともう1名の教員（副査）で審査を行い、総合的に成績評価を行う。				副査の審査結果及び修正意見に基づき、主査の指導のもとで論文修正を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	卒業研究中間報告会、最終発表会でのプレゼンテーションの内容等を評価する。				発表会後に主査からプレゼンテーションの講評及び指導を受ける。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	4 年次ゼミ（福祉心理学専門演習Ⅲ・Ⅳ）を担当する教員が原則主査となる。 2023 年度は次のとおりである。他担当教員：瀧口 綾、高田 毅、田村 正人、渡邊 隆文						
教員の実務経験	社会福祉士・臨床心理士・公認心理師等の専門資格を有して現場実践を重ねている教員で構成されている。						
実践的授業の内容	社会福祉士・臨床心理士・公認心理師等の専門資格に基づく現場実践での問題発見及び問題解決能力を活かしつつ、これまでの研究成果に至る研究活動の経験を存分に踏まえて、論文作成の指導を行う。						
そ の 他	受講希望者は、4 年次開始から早々に「研究テーマ」および「指導を依頼する教員」を確定させること。「テーマが決まってから相談に行く」と考える必要はないので、指導を依頼したいと思っている教員に可能な限り早く相談に行き、相談しながら研究テーマを探すこと。研究指導の日程については各担当教員と相談の上決定すること。また、卒論指導を受けるために登校する際は、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には履修を認めないことがある。その場合、本科目の履修を放棄したものと見なす。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。						